

校種・教科名	家庭	家庭総合（3年）	単位数	2単位
学習到達目標				
<p>1. 人の一生と家族・福祉・衣食住・消費生活などについて学ぶ中で、基礎的・基本的な知識と技術を習得する。</p> <p>2. 生活のなかで課題を見出し、それを解決するための手だてを考えるとともに、次のステップの実践へとつなげていく。</p> <p>3. 自分らしい生活観・価値観を創造していくなかで、自分の個性にあったライフスタイルを築いていく。</p> <p>4. 多様化する現代社会において、男女がともに主体的に生活を営み、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育成する。</p>				

学期	学習内容	時数	学習のねらい
一学期	オリエンテーション 5章 食べる 1節 人の一生と食事 2節 栄養と食品 3節 食生活の安全のために 4節 食生活をデザインする 5節 これからの食生活	1 23 (4) (4) (3) (11) (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年で学習する内容について把握する。 ・食物の役割を認識し、食が心身を育む上でも大切なものであることを理解する。 ・各国、各民族の食文化は自然環境や社会と深くかかわっていることを理解する。日本食の基本「一汁三菜」を理解し、わが国の食文化を知る。 ・食事調査などを通して現代の食生活や各自の食事の問題点について学習し、食生活のあり方を考える。 ・食料自給率の低下と対策について考える。 ・栄養所要量と4群別摂取量の目安について理解する。 ・栄養素の種類と働きを理解するとともに、それぞれの栄養素を多く含む食品の特質を理解する。 ・生鮮食品の選び方や食品表示の見方を学習し、適切な選択、保存ができるようにする。 ・食品の腐敗、食中毒、食品添加物について学習し衛生的で安全な食生活ができるようにする。 ・日常摂取している食品には、どれくらいの添加物が含まれているか調査し理解する。 ・食品群別摂取量のめやすや食物費、調理の効率などを考慮した日常食や行事食の適切な献立作成ができるようにする。 ・調理法の要点を理解するとともに調理の基礎技術を習得する。 ・日常食や行事食の食卓の整え方、配膳の仕方について理解し食事のマナーを身につける。 ・食事をとりまく環境の変化について理解し、課題について解決策を考える。
二学期	2章 次世代をはぐくむ 1節 子どもの発達 2節 親の役割 3節 子育て支援と福祉 3章 充実した生涯へ 1節 高齢期を生きる	11 (6) (3) (2) 12 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊さへの認識を深めるとともに、子供を生み、育てることの重要性を理解する。 ・青年期の心身の特徴を理解し、この時期の健康管理が生み出される生命に影響を与えることを認識する。 ・乳幼児期は一生を通じての人間の発達の基礎をつくる最も重要な時期である事を理解する。 ・基本的生活習慣の形成や遊びによる社会性の習得について理解する。 ・妊婦体験を通して男女で子育てに関わる重要性を理解する。 ・乳幼児期に形成される親子の心のきずなは、自己への信頼と他者への愛着を育む土台となることを理解する。 ・よりよい保育環境を保障するために、子育て支援の方法や地域、社会が果たす役割について考える。 ・子どもの権利や福祉についての理解をはかる。 ・わが国の高齢化の現状について理解するとともに、将来の高齢社会のあり方を考えていく。 ・高齢者の健康意識について知る。 ・エイジフリー社会について考え、高齢者の社会参加にはどのような地域活動や生きがい事業がふさわしいのか考え

	2節 高齢社会を支え合う	(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者体験などをとおして高齢者の心身状態への理解を深める。 ・高齢者世帯の生活状況を把握し、心身両面からの支援が必要なことを知る。 ・介護保険制度のねらいや運用方法について理解し、今後の課題についても考える。 ・高齢者の自立を支援するうえでのコミュニケーションや介助の基本的な知識と技術を学ぶ。 ・介助実習をとおして、高齢者に対する心構え、介助される側の立場を理解する
	4章 ともに生きる	6	<ul style="list-style-type: none"> ・役場見学も交えながら、社会保障制度の必要性とそのしくみについて認識する。 ・グループディスカッションを通し、ノーマライゼーションの実現のためには、私たち自身がどう考え取り組んでいけば良いかという実践的な態度を身につける。
三 学 期	8章 住まう	15	
	1節 人の一生と住まい	(8)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本や世界の特徴的な住まいを比較し、地域の気候や風土に応じてつくられたことを理解する。 ・時代や家族構成、家族の生活行為に合った住空間の広さや動線などについて理解し、望ましい間取りを考える。 ・インテリアの構成要素について理解し、自分のライフスタイルにあった部屋をデザインする。
	2節 住生活の計画と選択	(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と住環境の関わりについて理解し、衛生的で安心して住めるより良い住環境について考える。 ・災害や家庭内事故防止に備えた安全対策について考える。 ・住まいのメンテナンスや法制度について理解を深め、住生活の課題と長く住み続けるための工夫を知る。
	3節 これからの住生活	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のさまざまな条件をもった人々が安心して住める、今後の住環境について考える。
	まとめ	2	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年で学習した内容を振り返る。

使用教材等		
教科書・・・第一学習社「高等学校 家庭総合」		
副読本・・・第一学習社「最新生活ハンドブック 資料&成分表」		
各学期の テスト・ 課題・提出物	一学期	テスト（70%）
		課題・提出物・授業（実習）態度（30%）
	二学期	テスト（70%）
		課題・提出物・授業（実習）態度（30%）
	三学期	テスト（70%）
		課題・提出物・授業（実習）態度（30%）
留意事項		
・調理実習の点数は比重を大きくする。		